

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4071900833		
法人名	有限会社 かじかわ		
事業所名	グループホーム めぐみの里 (1号館・2号館)		
所在地	〒825-0004 福岡県田川市大字夏吉364番地	Tel 0947-45-2409	
自己評価作成日	令和03年06月15日	評価結果確定日	令和03年08月06日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	令和 3 年07月15日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者の生活状況や身体状況をよく把握しており、毎日の介護にも活かされていると思っています。介護の中で医療的知識を得ながら 死にゆく人を看取るという、大変ながらも貴重な体験を通して介護職員は経験を積んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「めぐみの里」は、緑の木々に囲まれた見晴らしの良い丘の上に位置し、19年前に開設したト定員18名のグループホームである。利用者や家族の希望を優先したかかりつけ医の受診を支援し、ホーム協力医の往診と看護師、介護職員との連携で安心の医療体制が整い、看取りの支援も行っている。代表の地元である強みを活かし、運営推進会議への参加や利用者の紹介等、地域の協力も多い。ユニット毎に、職員が交代で作る美味しい料理を提供し、赤飯やちらし寿司で祝う誕生会や弁当持参のお花見等は利用者の楽しみである。ホーム内は清掃が行き届き、明るく清潔なりビングルームでは、貼り絵や塗り絵、オセロ、編み物等に取り組み、利用者は自由にのびのびと過ごしている。職員同士仲が良く、家庭的な雰囲気の中で、その人らしくゆったりとした暮らしを支える温かなケアに、家族から大きな安心と信頼の気持ちが寄せられている、「めぐみの里」である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「その人らしくゆったりと」をホーム内に提示し、職員は利用者を尊重しながら、その人らしく生活ができるよう取り組んでいる。	「めぐみの里」が目指す介護理念を見やすい場所に掲示し、職員一人ひとりが常に目にする事で共有している。職員は、ゆとりを持って利用者に寄り添い、思いや意向を聴き取り、利用者本位の暮らしの支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事は地域住民と案内、参加を呼びかけたが、昨年は状況などにより、部外者参加の行事ができておらず、地域との交流ができていない。	自治会に加入し、地域の商店で買い物したり、ホーム前のコンビニエンスストアへ出かけて顔見知りになる等、地域との繋がりを大切にしている。代表の自宅跡地に開設して19年を迎え、日頃から地域の皆さんから多くの協力を得ている。ホームの夏祭りや運動会には家族や地域の皆さんに案内しているが、現在はコロナ禍で自粛している。	地域の行事や活動への参加が少ないので今後の課題として検討し、認知症カフェ等、ホームのスキルを活かした地域貢献を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで地域の代表者と話し合いをもち、助言や活用している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し地域に根差し助言をもらい、実行できるよう検討している。	コロナ対策以前は、運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、ホームの運営や取り組み、利用者の現状を報告し、参加委員からは質問や意見、要望、情報提供を受ける等、活発な意見交換が行われている。会議で出された意見や提案は検討し、出来る事からホーム運営や業務改善に活かしているが、現在は書面でやり取りしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護保険関係や生活保護関係の職員と連絡を取り合い、不明な点はこまめに確認するようにしている。	運営推進会議に、地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状や取り組みの理解を得て、アドバイスや情報提供を受け、協力関係を築いている。また、ホームの空き状況や事故の報告を行政担当窓口に行い、介護の疑問点や困難事例を相談する等、行政と連携を図っている。また、	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の研修を行い、全職員に理解を求めている。必要な梗塞となりうるものは、個人及び、家族に同意をいただき、対応している。	毎月職員会議を開催し、身体拘束について学ぶ機会を設け、拘束となる具体的な事例を挙げて検証し、職員の意識づけを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。2ヶ月毎に開催する運営推進会議の中で身体拘束についての報告を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修に取り入れ、職員全体で、話し合い注意しあい、予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員間で利用者の必要性をはなしたり今後どう対応していくべきかの話し合いをして、利用者の検討している。管理者は制度について理解し市の無料相談にも行き、検討している。	権利擁護の制度について、内部研修会で学ぶ機会を設けている。現在、制度を活用している利用者があるので、後見人とのやり取りを通じて制度の理解を深めている。制度の資料を用意し、利用者や家族から相談があれば、制度の内容や申請方法を説明し、関係機関に相談出来る体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に入居に関して意向をうかがうとともに生活していくにあたって、の不安や疑問も尋ねている。家族に特に理解してもらいたい注意点や利用料について詳細に説明するように心がけている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が何でも話しやすい関係性を築くことができるような努力をしている。意見や要望があった時は施設長や職員も含めて検討する。	家族の面会時や行事参加の機会に、家族に利用者の近況を報告し、家族の意見や要望を聴き取り、ホームの運営に反映させていたが、コロナ禍の中で、家族とは電話で話し合っている。毎月、写真と個別のコメント入りの苑便りを作成して家族に送付し、家族の安心と喜びに繋げている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員のミーティングに管理者代表も参加し、職員の意見を聞いて運営役立てている。再び意見交換にて、ケアに結び付けている。	毎月出勤者でユニット毎のミーティングを行い、カンファレンスや研修も兼ねて実施している。欠席者は、会議議事録に目を通して内容を確認している。朝夕の申し送り時や昼の休憩時間に、職員の気付きや意見、心配な事等を話し合い、解決に向けて取り組んでいる。代表は、職員の意見を尊重し、出来るだけホーム運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は全職員の勤務状況、や個々の実績や努力の様子把握し給与に反映するようにしている。介護福祉士等、資格取得を目指していけるよう、講習の参加を促して金銭面の補助をしている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の勤務希望にもできるだけ応じて、負担なく仕事に取り組めるようにし職員の募集には性別、年齢など、条件は付けていない。	職員の募集は、年齢や性別、経験の制限はなく、人柄や介護に対する考え等を優先している。希望休の確保やそれぞれの事情を汲んだ勤務時間に配慮する等、働きやすい職場環境である。職員間のチームワークも良く、思い合い、助け合える関係で職員の離職も少ない。資格取得も奨励し、職員が向上心を持って働ける支援に取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者虐待予防を含め、人権尊重に対しての研修を取り入れ、グループホーム利用者の権利提示、職員に周知を図る。	利用者の人権を守る介護サービスについて、身体拘束や虐待防止の研修を定期的実施し、利用者の尊厳を尊重した暮らしの支援に取り組んでいる。また、「グループホーム利用者の権利」を掲示して、職員の意識づけを行い、言葉遣いや対応にも注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に対して資格取得のために研修の参加を促し勤務調整も考慮するなどして、育成している。研修そのものが、コロナ禍で延期、中止になることが多い。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	参加できる勉強会がコロナ禍でできないため、困っている。他の施設との意見交換など電話やメールで参考にしている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者は生活環境が変わることでの不安は大きいので安心できるようにこまめに話しかけるよう努める。グループホームになじんで生活できるように努める。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の契約を行うときや入居の相談があった時に家族に困っていることや要望を聞き取り、関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで生活をしなければならない状況なのかどのような生活を望んでいるのかを管理者、職員で協議し、どのように支援していくか検討をしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や衣類の整理、洗濯量、仕分け、草取りなど、その人ができることは、職員と一緒にしようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度苑だよりを発行し状況報告をしている。遠方の家族へは必要に応じて手紙や電話で連絡、報告するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員間での利用者への必要性を話したり、今後どう対応していく	コロナ対策以前は、近隣からの入居利用者が多いので、家族以外にも親戚、友人、知人の面会が多い。面会時には、ゆっくり過ごせる場所を提供し、また来てもらえるよう声掛けしている。家族と一緒に外出に出かけたり、自宅への一時帰宅等、馴染みの関係がホーム入居で途切れないように支援していたが、現在はコロナ禍で自粛している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで過ごす時はお互いに関心を持ってもらえるような活動をしたり、J居室で過ごす方にはスタッフと利用者で声掛けを行い孤立をしないよう、かかわりを持つ。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られた場合などは施設への訪問はほとんどないが、家族との出会いなどで、経過を聞いたりしている。また、サービス利用終了の場合は通夜、葬儀、初盆まではいくようにしているが、コロナ禍で、できないことがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	グループホームで生活をしなければならない中で少しづつ気持ちが変わる方、変わらない方それぞれであるが、個々のその時の思いを共有した対応を心掛けている。	職員は、日常生活の中で利用者の思いや意向を把握し、職員間で情報を共有し利用者の日常介護に反映させている。意向表出が難しい利用者には、家族や関係者に相談し情報を得ながら、職員が利用者寄り添い、その表情や仕草から思いに近づく支援に取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の生活状態と入居後に本人との会話の中で得た情報からどのような暮らしをしていたか整理し、把握し、記録もしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	集団生活の個々の過ごし方、活動の参加の有無を把握し個人に合わせた生活が送れるよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望家族の意見や要望を聞き取り、職員からの心身の状況を確認し、毎月のモニタリングの中で、介護計画の作成を行っている。	利用者家族の意見や要望、心配な事等を聞き取り、毎日の申し送や毎月のミーティングの中で、職員の意見や気づき、心配な事を話し合い、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。退院時や入居時には、1～3ヶ月毎に介護計画を見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、職員で個別の記録行い、管理者で支援経過も記録し月々のミーティングでケアへの取り入れ等について、話し合い、介護計画への導入も視野に話し合う。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居時や入居後であっても本人の希望がある場合は、施設長の判断で対応可能なものに関しては応じるようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域の中で安心して生活を送っていくことができるよう、地域とのかかわりを支援していく。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所者がかかりつけ医がいる場合は、在宅時と同じようにそのまま、受診するよう心掛けている。また、本人や家族の望む医療が受けられるよう支援している。	利用者や家族の希望を優先して、入居前のかかりつけ医の受診を支援している。家族同行をお願いし、医師の話を直接聞いてもらい、帰りにドライブを楽しむ等、利用者や家族の大切な時間になっている。通院が困難になった場合は、協力医療機関の医師による往診に切り替え、家族の負担軽減に取り組んでいる。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の介護の中で、些細な気づきをもって、職場内で相談し、個々の利用者が、安全に適切な看護を受けられるよう努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、状況の把握が瞬時にできるように、患者情報を病院関係者と情報交換ができるように、また、早期の退院にむけて、そうした場合に備えて、病院との関係づくりを行う。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの実施については契約時に説明を行っている。また、まだ、家族が受け入れられない場合などもあり、おりにふれて、重症化していく利用者については家族と話す機会を設け状況の変化に合わせて何度も話あう。	契約時に重度化や終末期に向けたホームの方針について、利用者や家族に説明し、看取りについての希望を尋ねている。利用者の重度化に合わせて家族と密に話し合い、家族の希望を再度確認し、主治医や訪問看護師、介護職員が連携しながら方針を共有し、これまで10名以上の看取りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修の中に事故発生時の対応についての研修を組み込み、資料やマニュアルで、応急処置や連絡体制などの確認をしている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施している。夜間想定での訓練も行い、連絡網の整備をして、近くに住む職員がかけつけられる対策をしている。地域の方々の連絡先も掲載し、万が一の時の協力もお願いしている。	防災訓練を年2回実施し、夜間想定での訓練を行い、近くに住む職員の非常時の対応の確認と連絡網の中に地域住民の連絡先を記載し、緊急時の協力をお願いしている。また、非常災害に備えて、飲料水や非常食等の備蓄を用意している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に関しては社内研修をし、基本的なこととして、とらえ支援にあっている。利用者を尊敬し家族のような存在として、見守っていく支援に心がけている。	利用者のプライバシーを守る介護の在り方について、職員会議や申し送り時に話し合い、言葉遣いや対応に注意し、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護サービスを目指している。また、利用者が部屋で自由に過ごしたり、仲良しの利用者と一緒に居室を歩き来して過ごす等、利用者一人ひとりのプライバシーを尊重しながら、利用者一人ひとりに合わせた暮らしの支援に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言いたいことが言える会話の場所を提供し、言いたいことが言えるような雰囲気作り、傾聴から初めて意見を重視し、活動に取り入れれたりしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事の時間は基本的には決まっていますが、本人の意思で自由に過ごしてもらっている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面から始めて衣類や小物等、好きなものを選んだり、簡単な化粧をしたり、希望するヘアカットを本人の意思でその人なりの身だしなみができるよう支援している。毛染めを希望され、美容院へ連れていく方もいる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日ではないが、献立を考え、誕生日や季節の行事に合わせて、利用者から何々が食べたいと、意見を聞き、メニューに取り入れた食事設定を行い、できることは下ごしらえなどを職員と一緒にやっている。	利用者が楽しみにしている食事は、職員が食べたい物を尋ねながら、旬の食材を使って、手作りの美味しい料理を提供している。雛祭を赤飯で祝ったり、誕生会では希望によってちらし寿司を作ったり、弁当を作って花見をする等、食を大切に支援に努めている。焼きそばやたこ焼きを利用者と一緒につけて食べることも楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は摂取時に確認できている嗜好に合わせてジュースやコーヒーにしてみたり、水分が摂れる用にかえてみる。ミキサー食の方には市販のものを利用して栄養面にも注意をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で口腔ケアできる方は、毎食後準備をして、歯磨きをされる。毎食介助を必要とされる方は夕食後だけは職員が付き添い歯磨きを行い、口腔内の確認痛みや出血、入れ歯の不具合を確認必要があれば、歯科往診をお願いする。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ使用者でも排泄意はあるという方もいるので、それを生かして訴えがあるときは、トイレでの排泄を促している。	職員は、利用者の排泄パターンや生活習慣を把握し、重度化してもトイレで排泄する事を基本とし、車椅子の方やオムツ使用の方もトイレ誘導を行っている。利用者の状況を観察しながら、失禁が無い場合は布パンツに替えてみる等、柔軟に対応し、利用者の自信回復に繋げる排泄支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く取ってもらったり個別の整腸飲料を利用されるなど、自然な排便を促すも、慢性の便秘症も多く、下剤、座薬や浣腸でのコントロールが必要な時もある。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夏場は週3回冬場は週2回と入浴設定をしているが、その日に入浴が事情があってできない場合は別の日に準備をし気軽に入浴できるよう、その人だけではなく他の方も入れるよう対応している。	入浴は、夏場は週3回、冬場は週2回の入浴を基本とし、「私が一番」「人の後には入れん」等、利用者の思いを聴いて、出来るだけ希望に応えるように支援し、気持ち良く入浴が出来るように努めている。入浴日は利用者と職員がゆっくり会話が出来る大切な時間と捉え、利用者の思いや意向を聞き出している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気候に合わせて空調、寝具、衣類の調節を行い、快適に睡眠がとれるよう努めている。また、個々の身体状況に合わせて休息時間がとれるようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時には医師や薬剤師への確認はもちろん		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の趣味や好きな事を把握しとりいれた活動をしたり、好きなものや好きな食べ物を希望にそって購入したり楽しく過ごせるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	今はコロナ感染で外出ができない状況なので苑庭で楽しく過ごしたり、ドライブに出かけるなど季節の移り変わり、を感じて頂き気分転換やストレスに対応している。	コロナ対策以前は、梅や桜等、季節の花見を兼ねたドライブに出かけ、気分転換を図っている。また、天気の良い日は、苑庭に出て外気浴を心掛けている。病院受診の帰りにドライブや買い物をする事も利用者の楽しみである。また、家族と一緒に外食を楽しむ利用者もいて、家族と協力しながら外出できるよう支援していたが、コロナ禍の中で現在は自粛している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別にお金の所持は今のところしている方はいない家族に所持について伝え施設が管理している。本人の希望に添い購入し、確認し使うようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話をかけたいと要望がある時その対応をしている。直接話すことで落ち着かれる様子まみられる手紙を出したいと言う希望には、出来るように取り組んでいる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾り付けを利用者の制作したものを、廊下やリビングに貼り付け季節感をだしたり、行事の写真を貼り皆さんに見てもらったり展示を心掛けている。	高台にあるため、風が通る明るいリビングルームでは、テーブルを囲んで、季節の貼り絵や飾り物を制作したり、職員相手にゲームや体操を楽しんだり、それぞれが自由に過ごしている。玄関前の花壇の手入れ、室内の清掃等も行き届き、清潔で気持ちの良い共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼リビング共有空間で自分席という認識持つ方が多い為、自分の空間で思い思いに過ごしている。利用者同士の関係をスタッフなりに考慮しながら配置を決めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅での愛用品持ち込みを進めています出来るだけ使い慣れた物を用意してもらうように家族に伝えている。	利用者の馴染みの家具や身の回りの物を沢山持ち込んでもらい、利用者が安心して過ごす事が出来るよう配慮している。利用者が自分の部屋に愛着を持って、穏やかに暮らせるように配慮している。室内は清掃が行き届き、換気にも注意して、明るくて居心地の良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由に外を眺められ、ゆったりと過ごせるようソファを設置している。車椅子の方が自走してトイレで排泄出来るよう動線に危険なものがないようにしている。		